

感想文

広島平和の旅に参加した皆さんが、それぞれの想いを胸に、被爆地広島を訪れました。そして、たくさんの方を見て・聞いて・感じてきました。

ここでは、広島平和の旅をとおして印象に残ったことを、ありのままに書いていただきました。

今回、旅に参加した皆さんには、広島はどう映り、何を感じたのでしょうか。



※原則として、感想文などは原文のまま掲載しています。

広島平和の旅を終えて

高山 智子

『我が子がある程度大きくなったら広島に連れていき、平和について学んでほしい。』子供が生まれた時からずっとそう思っていました。我が子は、広島平和の旅に参加した2日間のためにたくさんの場所を訪れ、たくさんの事を学ぶことができました。旅から帰ってきた後も、戦争や平和について話すようになり、親子ともどもとても貴重な体験ができました。

今回の旅でふと気づいたことは『自分事』であるか、ということでした。私達が平和記念式典に参加しにきたことを知ると、タクシーの運転手さんも路面電車で前に座っていた主婦の方も、お好み焼き屋の若い店員さんもまず一言目に「それは遠くからありがとうございます。」と言ってくれました。その一言に一瞬戸惑いましたが、すぐに「ああ広島の人にとって、戦争は73年経った今も『自分事』なんだ。」と感じました。戦争やその当時のことを『知ろう』と広島にやってきた我が子や私は、まだ戦争は『他人事』なのかもしれないと思いました。しかし、この2日間で原爆被害者の方から直接お話を伺いその苦しみに共感したり、平和記念資料館であの時の一人一人の生死をかけた物語を読んだり、平和記念式典に参加しそこで述べられる言葉の一言一言に思いを寄せたりしたことで、単なる歴史上の事実という『他人事』から、心を揺さぶられた『自分事』として

原爆や戦争のことを捉えられるようになった気がします。今回の広島訪問は平和について『自分事』として考えるスタート地点となりました。更に『自分事』として戦争や平和について考えられるように学び続けていきたいです。

最後に、この機会をくださった西東京市に感謝します。市職員の方々は大変親切に同行してくださいましたし、西東京市長も被爆者の方の話を一緒に聞かれ、平和記念式典に出席されました。西東京市が平和への取組をこんなに推進していることを初めて知ることができました。



旅に参加する前の広島のイメージ

原爆ドーム、歴史上の重要な場所（73年前の出来事）、戦争について子どもたちに学ばせる場所、西日本豪雨、オバマ大統領、歴史的事実

旅に参加した後の広島のイメージ

- ・ 73年前を今でも風化させまいと人々の思いが集う場所
- ・ 戦争について子どもたちと学びはじめるスタートとなる場所
- ・ 歴史的な事実にとどまらず、その思いが今でも生き続けている場所
- ・ 私自身の中で、歴史的事実から自分事として感じる事が出来る場所

広島平和の旅で学んだ事

高山 篤志

小学校5年生

僕が、今回の広島平和の旅で一番心に残った事は、原爆被爆者の方から直接話を聞いた事です。ぼくたちは平野貞夫さんから話を聞きました。

平野さんは「原爆投下の中心部は、三千～四千度にもなってそこにいた人はその高熱で焼かれてしまった。」と、言っていました。太陽の表面温度が五千～六千度なのでとてもあつい熱で焼かれてしまったとわかりとてもおそろしいと思いました。ぼくは、原爆ドームを初めて見ました。原爆ドームがゆいいつ残って、その他の建物は、ものすごい高熱と爆風によって消失してしまいました。平野さんは、「戦争は無差別である。」と言っていました。ぼくも、本当にそうだと思いました。何も悪い事をしていないふつうの人々が何も知らないうちに、一しゅんにしてたくさんの尊い命をうばわれました。赤ちゃんも、赤ちゃんを育てていたお母さんも、おじいちゃんも、僕のような小学生も広島にいたというだけで死んでしまいました。とてもざんこくで悲しい事だと思いました。

話の最後、平野さんは、「希望はすててはいけない。」と言っていました。今は、核兵器が、世界で一万発以上あるけれど、僕は、この世の中が明るく、楽しく、笑顔になれる世の中になってほしいと思いました。ぼくは、そのために二つのことをがんばりたいと思いました。一つ目は、みんなに

戦争はしてはいけないという事や、平和の大切さなど、この旅で僕が知った事を伝えていくということです。二つ目は、身の回りの暴力をなくすことです。暴力ではなく、話し合いで解決する力が平和につながると思ったからです。身の回りの小さな事でいいから少しずつ良くして、平和な未来を目指したいです。

「核兵器をなくしてほしい。」という平野さんの願いをもとに、僕もせいいっぱいがんばって、戦争の無い世の中にしていきたいと今回の旅で考えました。



旅に参加する前の広島イメージ

・映画「この世界の片隅に」
 ・原爆ドーム
 ・爆撃機「B-29」
 ・平和記念公園
 ・西日本豪雨
 ・牡蠣

1945年 8月6日

旅に参加した後の広島イメージ

・原爆など二度と使ってはいけないと、思わせてくれる場所
 ・やけどした三輪車
 ・千羽づる
 ・とけたガラスのいん
 ・戦争の原爆のおそろしさを教えてくれるところ



平和への思い

為房 久美

1日目は、原爆ドーム、爆心地等を訪れ、平和記念資料館を見学しました。原爆ドームの被爆前の姿と、被爆後の変わり果てた姿に強い衝撃を受けました。平和記念資料館では核兵器の脅威を感じ、そして、この原爆の惨状を決して忘れてはいけない、と強く思いました。

今回の旅で、特に心に残ったのは、被爆体験者、平野さんによる講和です。

“殺したくない、殺されたくないのに、人が人を殺す。本当に恐ろしく残酷なこと。それが戦争。戦争は無差別。

これからの子ども達に、自分と同じような辛く苦しい思いをさせたくない。平和が一番大事だから、戦争反対、核兵器反対を訴え続ける。そして、命はとても大切だから何があっても希望を持って生き抜いて。”

平野さんが、一言一言、かみしめる様に話して下さった言葉は、深く心に響きました。そして、平野さんの思いを、次の世代、又その次の世代につなげていかなければ、と思いました。

2日目は、平和祈念式典に参列しました。暑い中、広い平和記念公園中

に多くの人々が集まり、平和への強い思い、祈りを感じる式典でした。このような式典に親子で参列できたことは、貴重な体験でした。

今回の旅で、親子共々、多くの事を学び、感じる事ができました。そのことを忘れずに毎日を大切に生きていこうと思います。

このような旅に参加させて頂いて、ありがとうございました。



旅に参加する前の広島イメージ

- 原爆ドーム
- 平和記念式典
- 宮島
- 平和への祈り

旅に参加した後の広島イメージ

- 緑が多く、明るく美しい街
- 平和への祈り、思いを強く感じる、力強い街



平和の旅

為房 壮

小学校5年生

ぼくは、広島平和の旅に参加して広島について色々と学んできました。

1日目は原ばくドームへ行き、平和記念資料館を見学しました。原ばくドームを見て思ったことは、原ばくのおそろしさです。ひばく前はりっぱな建物だったのに、いっしょんではいきよになった。平和記念資料館では、原ばくでやけこげた三輪車やとけたガラスのこびんのかたまりを見ました。それを見て人々のくらしが原ばくによって失われたということがよく分かりました。

その後、ひばく体験者の平野さんに話をうかがいました。平野さんは、原子ばくだんが投下された直後の様子を、絵を見せながら説明してくれました。平野さんが『平和が一番大切だ！』と教えてくれました。

2日目は、平和記念式典に参列しました。人が多く暑いなか立って見ている人もいました。各国代表の外国人がたくさんいました。子ども代表の平和へのちかいを聞いて、これからずっと平和がいいと思いました。

これからも原ばくや戦争について学んで、平和について考えていきたいです。



旅に参加する前の広島イメージ

- 原爆ドーム
- 路面電車

旅に参加した後の広島イメージ

- 平和記念式典
- 原爆ドーム



核兵器のない世界にしよう

松永 清佳

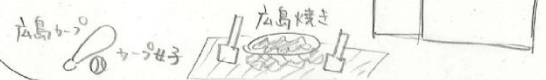
市報で広島平和の旅を見た時に、娘に戦争のことを教えたいと思い申し込みました。1日目の原爆の子の像では、折鶴の日付は全て今年のもので、日本中から今でも平和への願いがたくさん送られ続けているのだと感じました。また、資料館で初めて知ったことも多く、自分が原爆に対してあまりにも無知だったことに気づかされました。被爆体験談では、子供達に生々しい話をしてはかわいそうだと控えめでしたが、親心には聞かせても大丈夫だったなと思いつつ、いたずらに驚かせたくないという平野さんの優しさを感じました。

そして、これだけの人が悲惨な体験をし、二度と繰り返してはいけないという強い思いを持ちながら、世界にはいまだ1万4千発の核兵器が存在し、日本は核兵器禁止条約に賛成していないということを、はずかしながらこの時知りました。翌日の式典しかり、こんな無知な大人でも、核兵器ゼロの世界の実現を強く感じたこの旅を、今後も継続していただきたいと思えます。



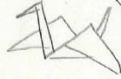
旅に参加する前の広島イメージ

- 、終戦のきっかけとなった
原爆が投下された町
- 、行ったことないけど、町は
きっと覚えてるだろうな



旅に参加した後の広島イメージ

- 、核兵器のない世界へ
世界中の人が二度と同じ経験をしない
ように
広島人は強く思い、発信し続けている。
子供達も当たり前のような意識を持っている。
そして風化と戦っている。



ひばく地から一番近い小学校

松永 瑞希

小学校3年生

ひろしま平和のたびで広島原爆についてべんきょうできて、とてもげんばくがこわいことが分かりました。

のこったもののなかですごいと思ったのは、本川小学校です。げんばくがおとされた所からあんなに近いのに、あれだけでものこるとすごいです。てんじしつになっているのははじのほうで、てんじされたものから分かったのは、てんじしているほとんどがやけていて、かたちも分からないものもいくつかありました。ガラスがげんばくのつよいねつでとけて、ほかのガラスといっしょにまたへんなかたちになってくっついていました。

少し大きな木もありました。こうていでみつかったいぶつもありました。なぜか分からないけれど、げんばくドームのはしらもありました。三八歩兵じゅうというじゅうなど、いろいろなものがてんじされていました。本当に本川小学校はすごいです。

もう せんそうがないようにしたいです。



旅に参加する前の広島イメージ



旅に参加した後の広島イメージ



五感で感じた広島

山野 真理

2018.8.6（月）快晴。今日も朝からムツとした暑さが立ち込める。大勢の人と沢山のボランティア、警備の人、止まらない汗。用意して頂いた凍ったお絞りに感謝があふれる。

73年前、この地で原爆が投下され悲劇は始まった。何故人は戦い傷つけ合い、何故爆弾を落とされたのか。被害や今でも続く身体や心の傷を負っている人達がいるということ、小学4年の息子に、大人になってからは感じる事の出来ない子供の心で感じてほしいと思い、この旅に参加した。

息子は、被爆体験者平野さんのお話を熱心に聞きメモをとっていた。そして翌日の本川小学校でも、舐め回すように一点一点を観察しメモをとっていた。自分と同じ小学生が辛い目に遭った場所を彼なりに感じ取ろうと必死だったのだろう。

この旅でろう者の方や外国の方、広島現地の方とお話させて頂き、皆平和を願いここに集まっているということを実感した。

当たり前前の生活が当たり前でなくなった戦争。体験していない我々が、立ち止まり、平和について考え、これからの未来に向けて発信する。とても大切な事だと改めて気づかせて頂いた。

ぜひ多くの人にも感じ、考えてほしいと願う。そして息子よ、何か困難な事にぶち当たった時にこの旅を思い出してほしい。



旅に参加する前の広島イメージ

台風被害、原爆投下、被爆による後遺症、心の傷、禎子さんの折り鶴（願い）、8月6日平和記念式典、路面電車、広島カープ優勝、オバマ大統領の折り鶴、平和への願い

旅に参加した後の広島イメージ

辛い体験、赤・黒・茶 3色の世界、国境を越えた平和の思い、力強い復興、他国との調和の難しさ、消えぬ身体と心の傷、東京と同じ青い空

力強い広島

山野 颯志

小学校4年生

ぼくは「広島平和の旅」に参加しました。1日目の平野さんの話が一番心にのこりました。ズボンについた火をもみ合いをして消したり、みんなむがむ中だったのがよくわかりました。

そんな事をむねに、2日目は平和記念式典に参加しました。多くの人がある原しばくだんのせいで亡くなったげん実。けれどその中でも生きている人もいました。その生きていた人達で一週間後路面電車を走らせ、同じ年の12月には広島カープ球団を作ったという広島の人達の団結と強さ。

ぼくは、この旅を通して学んだ平和と広島の方々の力強さを心にとめ、行動にうつしていきたいと思います。



旅に参加する前の広島イメージ

おこのみやき、暑い夏、路面電車、広島カープゆう勝、折りづる、川、土砂災害

旅に参加した後の広島イメージ

おこのみやき、路面電車、広島カープ、本川小学校、折りづる、原ばくドーム、平和記念式典、もみじまんじゅう、温かい広島の人たち

非核・平和都市宣言

私たちは生きている。

おおくの人々が、それぞれの習慣や宗教をもち
様々な考え方と、異なる環境の下で生活している
この地球で

私たちは持っている。

この地球上で、健康で幸せな生活をする権利を
異なる考え方の人々を差別しない義務を

私たちは知っている。

おおくの人々が、今なお戦争で傷つき命を失っていることを
住みなれた平和な生活の場を追われて飢えていることを

私たちは訴える。

必要なのは笑顔での話し合いであることを
必要なのは人類愛と思いやりであることを

私たちは宣言する。

あらゆる人を傷つける地雷や武器をなくすことを
あらゆるものの破滅を招く核兵器をなくすことを
地球上から戦争をなくすことを

私たち市民のこの声と願いを

世界に広く訴えるために

非核・平和都市 西東京市の
宣言とする。

平成14年1月21日
西 東 京 市